

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2016 年度 共同研究成果報告書〔研究資源活用型〕

2017 年 5 月 8 日 提出

1. 研究課題名	
都市の地面の平面構成に関する基礎的研究 (英文表記: Basic Study on Planar Composition of Urban Ground)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
北 雄介(きた ゆうすけ)	京都大学学際融合教育研究推進センターデザイン学ユニット・特定講師
3. 研究分担者 (合計: 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
矢野 桂司(やの けいじ)	立命館大学文学部地理学教室・教授
中小路 久美代(なかこうじ くみよ)	京都大学学際融合教育研究推進センターデザイン学ユニット・特定教授
栗田 雄一(くりた ゆういち)	広島大学大学院工学研究院電気電子システム数理部門・准教授
4. 研究課題の概要(300 字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)	
<p>申請者らは「地面」(ground)に着目して、都市の全体的な在り方を解読する研究を行なっている。地面は都市にかかわる多様な人々の意志を反映しており、かつ平面的に記述し、分析することが可能だからである。また地面はこれまで建築や土木工学、ランドスケープなどの分野で個別に扱われてきており、全体を考えたデザインもなされておらず、都市環境をよりよいものにするための鍵概念でもあると考えられる。</p> <p>本研究では具体的には、京都市内の 2 本の街路周辺の地面の平面構成、形態、素材、色、高度、所有権、機能などの複数のレイヤーにおいて記述し、解析する。2015 年度に着手済の研究の、継続研究である。</p>	
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)	
<p>2 本の街路周辺の地面の記述は前年度に着手したが、本年度はそこで得られたレイヤーをさらに拡充し、また地面に対する研究の切り口を確認するための研究を行なった。具体的には、筆者がこれまで撮影してきた 1,600 枚程度の地面の写真に対し、複数の観点からタグづけして整理するアーカイブサイト(http://jimen.site)を作成するという方法を取った。地面を分析する視点(レイヤー)としては 53 のタグが生成され、このタグの分析を行なった。この成果は地面記述にフィードバックが可能である。</p> <p>またこれと並行して、地面の素材や高低差による歩行感覚の違いを定量的に評価する研究を機械工学の研究者と共に行なっている。来年度には、提供いただいている MMS データと組み合わせて京都市内での歩行実験を行なう予定であり、本年度はその計画を行なった。この実験により、地面を物理的側面と感覚的側面の両方から記述できるようになる予定である。</p>	